

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム 昭ちゃんの家
所在地	鹿児島県志布志市有明町蓬原554番地6号 (電話) 099-475-2224
自己評価作成日	平成28年9月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周囲は畑や山に囲まれている緑豊かで、のどかな場所である。地域の方々とのふれあいもあり、隣の畑で収穫された野菜なども提供して下さったりして交流も図っている。院長宅が隣接し、毎朝、院長の訪問があることで家族の安心にもつながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○本人本位の生活が送れるよう、入居前の生活状況や馴染みの場所、人間関係を把握し、担当職員が個々の思いや希望を確認しながら会話をし、希望する場所への外出や友人知人らとの交流の機会をつくっている。また、日々の生活についても特に日課を決めず、個々のしたいことなどで自由に過ごしてもらい、利用者の外出希望にも積極的に対応している。

○日々の体調管理については、毎朝、母体医療機関の院長が様子伺いに立ち寄られるため、利用者の様子を細かく伝えることができ、「家族への連絡ノート」に記載することで、医師と職員、家族との情報の共有が図られている。

○医師や訪問看護事業所との連携がとれているため、重度化への対応や看取りについても積極的に対応している。また、毎月内部研修や外部研修を計画的に実施し、職員の技術・質の向上に努めており、日々のケアを実施するなかで職員の自信に繋がっている。

○人権の尊重やプライバシーの確保については、居室のドアを開ける際や着替えの準備のためにタンスを開ける時でも必ず本人の許可をもらってから行うなど、当たり前のことではあるが、本人の気持ちを大切にされた対応を心掛けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、リビング、職員トイレに掲示してあり、朝礼時に唱和し毎日理念の確認を行っている。ホーム便りに毎回掲載している。	開設時に職員全員で考え作り上げた理念を玄関やリビングに掲げ、毎日朝礼時に唱和することで理解と確認をしており、日々のケアの実践につなげている。また、新人職員には事業所の特徴や利用者主体の生活を支援する場であることを繰り返し説明し、考え行動してもらいたい旨を伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	集落の奉仕作業や運営推進会議に参加してもらったりし、積極手に交流を心がけている。消防訓練への参加協力が不十分なので少しでも協力して頂けるように努力していきたい。	自治会活動である奉仕作業に年数回参加するほか、中学校の福祉体験や職場体験の受け入れ等を行っている。また、日常的に散歩に出かけたり、買い物に出かけた際に住民と挨拶や会話を交わすほか、地域の方から野菜の差し入れをいただくなど、相互の交流が行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職場体験学習に訪問する中学生や支援サポーターの方々へ認知症の方々への対応方法などを説明し理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域、行政、駐在所等の参加を得て、2ヵ月に1回開催し、ホームの状況報告や地域交流、ホームからの要望等を元に意見交換やアドバイスをいただき、サービス向上に活かしている。	家族代表や自治会長、行政職員のほか、消防署職員や駐在所の警察官、母体医療機関の院長らが参加しており、主に行事等活動内容や入退去状況、事故報告等を確認し合っている。会では、警察官から安全運転等事故防止について、消防署職員から防災についての助言をいただくなど多岐にわたる意見交換がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村との連携は機会をとらえ報告、相談、各書類申請手続き等行い連携に努めており、運営推進会議参加や、生活保護の入居者もおり連携を密にしている。	事業所の実情やサービスの取り組みについて運営推進会議や申請手続きの際に報告、説明しており、保護課との連絡連携も随時図ることができている。また、行政主催の研修会や大隅地区グループホーム協議会主催の研修会場でも行政職員と面談する機会があるなど、事業所の実情やサービスについて伝える機会が多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会や廃止委員会を通じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない事情の時は家族へ承諾し行うこともある。	毎月の職員会議では、事故対策も兼ね身体拘束のない暮らしの支援について説明しており、年に数回身体拘束廃止委員会も開催している。言葉による拘束についても日頃から気を配っており、命令的または指示的な言い方にならないよう職員間で確認しながら積極的な会話に努めている。利用者が一人で外出してしまうことがあるため、職員間での見守りを徹底するとともに、近所の方にも事業所の実情を理解してもらい協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、職員で勉強会を行ったり、職員の行動などお互いが注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会がないので今後の為にも学ぶ機会があれば学んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入・退居時に家族へ契約について説明する際は、理解・納得していただけるように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見要望箱を設置し、面会時や電話で会話する機会に意見要望を聞き出すように努めている。家族との連絡ノートも準備している。	本人や家族の意見や要望について入居前の担当ケアマネージャーやかかりつけ医、看護師から話を伺い、情報提供書をもらい基本情報に記録している。また、年2回の家族会や毎月家族に近況報告を送付し、日々の生活の様子を知らせることで意見を出しやすくするとともに、コミュニケーションを取りづらい方には、表情や仕草等からも思いや意見を汲み取るよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月実施している職員会議やケース会議時に話し合いの場を設け、職員の意見交換も行っている。	職員会議や申し送り時に職員の意見を聞くほか、日頃から話しやすい関係が出来ているため、いつでも意見交換ができています。また、内容によっては個別面談も実施して詳細な意見を求めることもある。新人職員からは、ケアの方法や書類作成についてなどの相談を聴くこともあり、お互いの考えや意見を確認し合う機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	院長が職員会議等にも出席され勉強会の資料を準備されたり、職員の意見を聴いたりされ各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内が届き次第職員へ希望を募り参加を促し、職員全員が情報と知識を共有している。ホーム便りにも研修報告の欄を設け掲載している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加して交流している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に行う訪問調査や入所時など本人様や御家族に聞き取りを行ったりして少しでも不安な気持ちを取り除けるよう体制を整えています。また、その都度速やかに対応し信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記のとおり入所時に色々聞き取りを行い、要望や知りたいこと、不安なことなど可能な限り応えられるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が大切に思うこと等をふまえスタッフ全体で「本人が今最も求めているケア」を優先して提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の通り「共に助け合える家」という言葉を常に意識し本人様の持てる力（資源も含め）や意思に基づき自身の力が自由に発揮できるよう、また、不自由がある際はいつでもサポートが行えるよう関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人様の生活を支え協働する立場の人間として、認知症を患った本人様の今後の生活が安心したものになるよう教えてもらったり時には教えたりしつつ、また本人様と御家族の絆が途切れることがないように面会の際や毎月の月次報告などで本人様の素敵な一面やささいな変化などを伝えるようにし会えない時間の隙間が埋まるよう意識して関わっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族、または地域の方々から得た情報元に本人がなじみのあるお店やお友達との交流、お墓参りや自宅へのドライブなどが行えるよう支援しています。	これまでの人間関係について入居前に担当していたケアマネージャーや家族、知人等からも情報をもらいアセスメントシートに記録し、入居後も日常の何気ない会話から把握した外出先や個別の希望に応じて馴染みのお店や外食に出かけるなど、家族と職員が協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の性格や特徴に合わせ状態に応じながらスタッフが間に入り関係性の調整を行い互いが自然に関わりあえる環境作りに努めています。また仲良しの利用者の方々はお互いの居室を行き来できるようスタッフ間で周知し、自発的な交流も大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したとしてもいつでも来園していただけるよう声かけを行ったり、相談・助言やサービスの架け橋として継続した付き合いが気軽に行えるよう、町中でばったり会ったりした際に声掛けをしたりしてホームの中だけで関係が完結してしまわないよう意識して関わっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動等から本人の思いや希望などの把握に努めている。困難な場合は御家族より情報を得たり、ケース会議において本人本位に近づけるよう検討している。	本人の思いや暮らし方の希望を本人や家族から話を聞き、思いを伝えられない場合は、日常で見せる表情や仕草を含む言動から把握している。読書など本人のしたいことの希望があれば実現できるよう支援するほか、長所を生かした活動に自発的に参加できるよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など御家族の面会時に話を伺ったり、本人との普段の会話の中で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの意向や心身状態に応じてその日の過ごし方は違ってくる。又、「できること」の把握に努め、スタッフ間で共有し、過剰な援助をしないよう心掛ける。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議においてのスタッフの気づきや意見を集約し、本人や御家族の意向と共に反映させ介護計画作成に活かしている。	利用者、家族の意向を基にかかりつけ医の意見や毎月実施しているモニタリングのほか、短期目標期間更新時等必要時に随時実施しているケース会議で話し合われた内容を参考にして介護計画を作成している。介護計画の見直しについては、定められた期間だけに行うのではなく、意向の変化や身体状況に変化がみられた時等随時作成し、担当者会議を経て関係者に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の身体的、内面的なことの変化に気づいていけるようコミュニケーションをとりながら情報交換、共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とのコミュニケーションの中で情報収集は欠かさず、御家族の方には面会時に近況報告を行い日頃から関係性をつくれる関わりをし、御家族からの声を聞けるよう配慮しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在、馴染みの店を使ったりする利用者はいらっしゃいませんが、いつでも利用できるよう家族の方から情報収集をしたり御家族にいつでも活用できるよう説明しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、主治医に利用者様の状態報告しており、本人、御家族の希望はもちろん、状況に応じ主治医や指示された医療機関に受診をしています。	入居前は別の医療機関をかかりつけ医としていた利用者も毎朝、母体医療機関の医師が体調等状態把握のため訪問していることもあり、現在は全ての利用者が母体医療機関の医師をかかりつけ医として診てもらっている。また、職員は歯科等専門医による往診や受診にも同行するなど本人や家族の納得された医療機関の受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方々に起こる変化に気づき、スタッフ間はもちろん、看護スタッフにも報告、連絡し意見をいただけるよう声を掛けることを意識して業務を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の性格、好みや特性などを病院関係者へ情報提供しています。どうしても治療が困難な時はグループホームのスタッフが病院へ出向き本人様の心情を理解し適切な治療ができるよう協力、病院関係者と協働することを目指しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新しく入所するときに看取りに関することとお話しさせて頂いています。又、ターミナルに入る時にも御家族と話し合う機会を設け、十分な話ができるよう説明し、それと同時に家族支援というものも大切にし取り組んでいます。	内部研修で人命について話し合う機会を設けたり、医師や看護師を講師とした外部研修にも参加して知識を高めるとともに、看取りの際には医師や訪問看護との連携を図ることで職員も落ち着いて対応することができている。入居時に「看取り介護についての同意書」をとり、重度化したり状態の変化に伴い「急変時における確認」にて再度確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃の業務内容や便M教会で急変、事故発生時の対応などを教えています。又、実際に事故などが起こった時にも丁寧に教えたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練は定期的に行っています。地震などは消防の方から留意点等を伺いましたので、訓練を実践していこうと思います。</p>	<p>災害マニュアルを整備し、年2回夜間想定を含む火災避難訓練を実施しており、消火や通報の手順を確認している。災害訓練実施日を運営推進会議で伝達し、自治会長からも住民に声をかけてもらっているが、ここ数年地域住民の参加は得られていない。備蓄については、水やレトルト食品等1週間分確保し、備品についても万が一に備え、懐中電灯やカセットコンロ等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が尊厳をもち、寄り添いあからさまな声掛け等をしないよう心掛けている。個人情報の管理徹底している。	人権やプライバシーに関する勉強会を職員会議で実施し、言葉遣いや異性に対する接し方にも気を配るなど、日常の中で気付いた細かな部分まで話し合い確認している。居室に入るときは「失礼します」と声をかけ、着替えの準備をする際は、「準備しますよ」とタンスを開ける許可をもらうなど、プライバシーに配慮した対応を職員全員で心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、外出がしたい等の要望にも可能な限り気分転換が図れるよう心がけている。自発的に意思を訴えられない方には家族からの意向や情報を元に判断できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われず、利用者様との関わりを1番に考え携わっている。また表情などからも体調面を観察し読み取り決まった時間に起こすことはせず、その一日をゆっくりと安心して過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗面、髪とぎ、整容等、衣類は選択ができる方には選んでいただき、意思表示ができない方へは、職員が選び偏りのないよう御家族の支援の元、季節にあわせて着衣等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加される方はおらず、その日の気分によって配膳、下膳、台拭きをしていただいています。味付け方法を教えてくれたりもされます。	以前は市の管理栄養士による栄養指導を受け献立を作成しており、最近はそのを基に魚と肉が重ならないことや栄養バランスに気を配り、当日にメニューを決めて調理している。現在、調理に参加する利用者はいないが、調理の下ごしらえや味付けの助言をもらうなど楽しい雰囲気の中で食事の準備をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事・水分の摂取率や排泄状況なども踏まえ、本人の嗜好にあったもので一定量が確保できるように援助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・毎食後には職員が付き添い声掛けや介助での口腔ケアが行えるように援助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導は定時以外にも訴え時や適宜で随時行えるように対応しています。また、日々の排泄チェック表や体調から排泄パターンを掴めるよう職員同士でもこまめに話をしている。	入院中はおむつでもホームでは尿取りパットやリハビリパンツを使用するなど、極力、おむつを使わない生活が送れるよう介護計画にも組み込み、職員全員で対応している。尿意のない利用者には、排泄チェック表を参考に定時にトイレ誘導をしたり、そわそわするなど落ち着きのない時等には、その都度さり気なく声をかけトイレに誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関する勉強会と各利用者の体質や排泄パターンを元になるべく自然排便できるよう自然食品（オリーブオイル）や乳製品、温・冷の飲み物等で胃腸反応を高めている。また、下剤の使用も必要時以外は控えるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意思を尊重しながら適時での入浴のお誘いをして、気軽に入浴しやすい環境を作っている。最低2回以上は入っていただいております。	週2回以上の入浴を心がけ、声かけをしながら利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。体調不良時には清拭や足浴等に対応している。気持ちよく入浴してもらうため、入浴剤を使用したり、ゆず湯を提供することもある。入浴後は保湿剤の塗布やスポーツ飲料等好みの飲み物を提供するなど水分補給にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人、自由に眠くなるまで過ごしてもらい、不安等あり眠れない時は、声掛けをし付き添い等の援助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬等、新しく処方される頓服薬等、誤飲のないよう、各個人目通しを行い、服薬中の状態チェックなども意識して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。お手伝いの後は、感謝の言葉を忘れないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調、行動力の範囲内で散歩をしたり、病院受診や電気治療等や買い物同行、ゴミ出し手伝い等をくみ外出していただいている。	日常的に散歩やドライブに出かけたり、ごみステーションにゴミを出しなどを職員と一緒にしている。また、桜やコスモスの花見に出かけたり、個人の希望する外出先を担当職員が尋ね、お墓参りや買い物、外食に出かける機会を作っている。以前に比べ外出の機会は減ったが、8月に「夕涼み会」を家族を交え行い、たこ焼きや焼きそば、お好み焼きを作り、楽しい時間を共有することができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から小遣い程度の金額を預かり職員が管理しているが、利用者から訴えがあった時に買い物へ同行している。現在は入居者で管理されている方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在、自らが電話をしたり手紙のやり取りをされる方はいませんが家族の面会時に様子を伝えたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節感のある飾りをしたり、調理などもなるべく季節のものを取り入れるようにしています。	玄関は広く、廊下やリビングの床材に竹を使用しているため色合いがよく、とても明るく感じられる。雛祭り等季節や行事毎に作品を変え飾りつけることで四季を感じてもらおう工夫をしている。また、北側の居室が暗くならないよう廊下に天窓を設け、居室の壁に明かりとりの窓を設ける工夫がなされ、光が差し込む造りとなっている。トイレは3カ所あり、安全のため夜間は常時トイレの電気を点けた状態にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状況に合わせて唄を、聴きたくない方がいれば、唄の好きな方の部屋で唄ってもらったりしています。又、一人になりたい様子の方には部屋に誘いゆっくりしてもらったりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔、本人が使われていた物や気にいっている物を使用し、外出した際や家族との写真を飾っています。	居室にはベッドやエアコン、タンス、洗面台が備え付けられている。これまで自宅で使っていた馴染みのものを何でも持ってきてもらってよいことを説明し、利用者が居心地よく過ごせる部屋作りを家族と協力しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、お風呂場等に表札をつけ、個人の理解力を把握し分かりやすくしています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない